

八工大・田中教授が講演

浅所海岸「良好な水質」維持

浅所海岸のコアマモの分布状況などについて説明する田中教授



平内町白鳥を守る会(三津谷武志会長)は3日、「浅所海岸の干潟を考えるセミナー」を町内で開いた。同海岸に繁茂する海草・コアマモを調査研究する八戸工業大学の田中義幸教授が講演し、出席

者はハクチョウの飛来地として知られる同海岸の自然環境に理解を深めた。セミナーは、「小湊のハクチョウおよびその渡来地」が国の天然記念物(現在は特別天然記念物)

平内

白鳥を守る会 天然記念物100年でセミナー

に指定されてから100年となったのを記念して開催。会員のほか、町の教育委員会や漁協、観光協会関係者ら約20人が耳を傾けた。田中教授は、浅所海岸が遠浅で良好な水質を維持していることなどを紹介。コアマモについては、同海岸での10月の総量と、飛来するハクチョウの羽数からみて「ハクチョウだけで考えても、1カ月ちよっとで食べ尽くす量(にしか過ぎない)」と説明し、ハクチョウたちがコアマモだけでなく、他の海藻や田の落ち穂などを食べて越冬していると考えられるとした。守る会は2005年の設立で、同海岸での羽数調査や海岸清掃などを行っている。8日も清掃を行う予定。三津谷会長は「内容が濃く、現実を知ることができた。一般の人にもっと聞かせたい話だったので、今後もセミナーを開きたい」と語った。(藤本耕一郎)

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」